

## 令和元年度第5回 感染症発生動向調査部会

令和元年8月21日

月番： 加藤 達雄

### 1 前月の感染症発生動向について（2019年第27週～第30週・7月）

#### <全数把握対象疾患>

- ・20歳未満の潜在性結核感染症が2例、20歳代の肺結核3例が報告された。70才未満の結核が約半数で、従前より若年者の報告が多かった。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が、29週に28例（うち26例が集団発生）と急激に増加していた。
- ・E型肝炎が、3例報告され、本年累計6例で、昨年同時期と比較して多い（前年比600%）。
- ・レジオネラ症は、先月6例に続き、今月は7例報告された。
- ・百日咳は、16例の報告があり、うち14例が小児例であった（0才児に2例）。小児例14例のうち、9例はワクチン4回接種後であった。

#### <定点把握対象疾患>

- ・手足口病は、27週以降も増加続け、前年同月期比3,623%と大きな流行がみられている。
- ・伝染性紅斑は流行が続いている（前年同期比2200%、前月比121%）。

### 2 検討すべき課題

#### ・結核について

昨年同時期と比較して減少がみられていない。報告の多くは高齢者であるが、昨年よりは20才台の報告が増加している、若年者の結核の多くが、外国出生者である。今後の外国人労働者の増加により、若年者の結核の増加が懸念される。検診を受ける機会少ない状況が予想されるが、外国人結核の効率的な発見が課題である。外国人を対象にした検診の在り方について、検討を要する。

### 3 情報提供すべき事項

#### ・結核

（事務局：保健環境研究所）

結核予防週間（9/24～30）に合わせて結核の啓発を行いたい。昨年は、一般向けにぎふ感染症かわら版で、高齢者の健診受診を主に啓発した。もう一つの課題である外国出生患者については、技能実習生の関係団体などを対象に啓発するべきか。

（事務局：保健医療課）

中小企業団体（技能実習生の監理団体を含む）を対象とした研修会の機会を利用し、講義や資料配布による結核の啓発を予定している（10月、11月）。

（加藤委員）

日本語学校、技能実習など外国出生者が多い団体・施設に対する結核に関する啓発が必要である。介護の現場にも外国出生者が増加しており、介護施設に対する高齢者の結核についての注意喚起とともに、職員の入職時の検診や症状出現時の早期受診などの健康管理に対する啓発が望まれる。

#### 4 情報提供（月番委員専門分野から）

・日本呼吸器学会「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン 2019」発行

成人百日咳の診断のフローチャート（LAMP 法、血清学的検査法）と感染を広げないことを目的とした治療の必要性について記載されている。

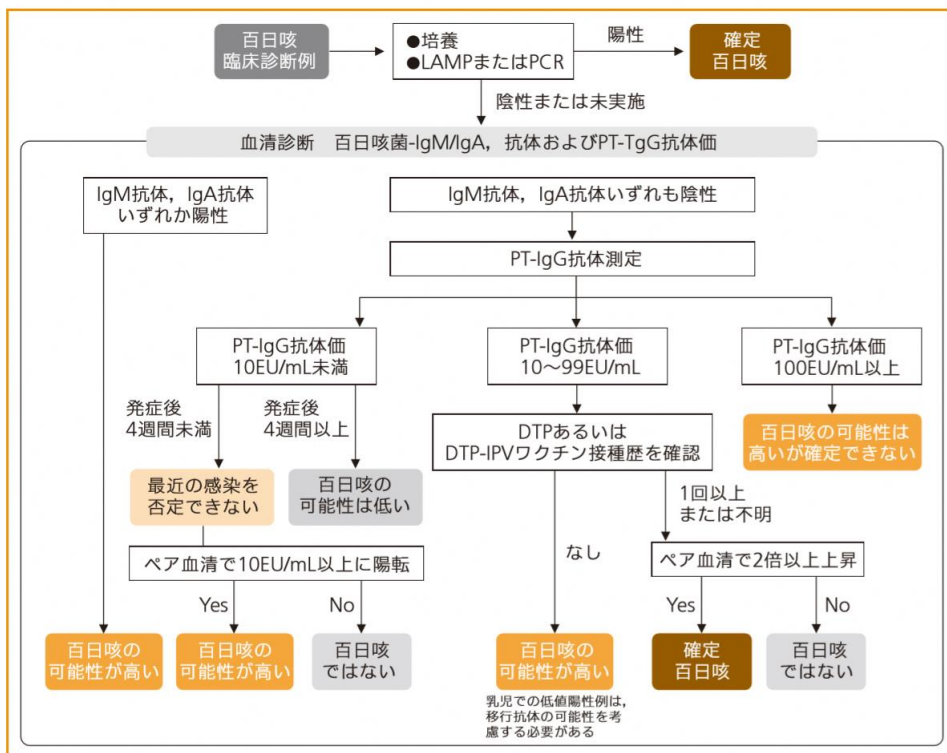


図1 百日咳臨床診断例での確定フローチャート

(文献 26, 27 より引用)

・新しいレジオネラ尿中抗原キット（リボテスト レジオネラ）が発売となり、レジオネラニューモフィラ血清型1～15のすべてに対応できるようになった（今までは血清型1のみ）。この結果レジオネラ症の報告が増える可能性あり。

#### <検討結果>